



平成10年度庄川町松原遺跡  
埋蔵文化財包蔵地発掘調査概要書

発掘の  
しるべ

庄川町教育委員会

2000.3

# 庄川町松原遺跡の概要

庄川町松原遺跡は縄文時代中期（約5,000年前）の集落遺跡で、昭和48・49年に行われた発掘調査では、大小13棟の住居跡や、縄文土器・石器・土製品などが確認できました。

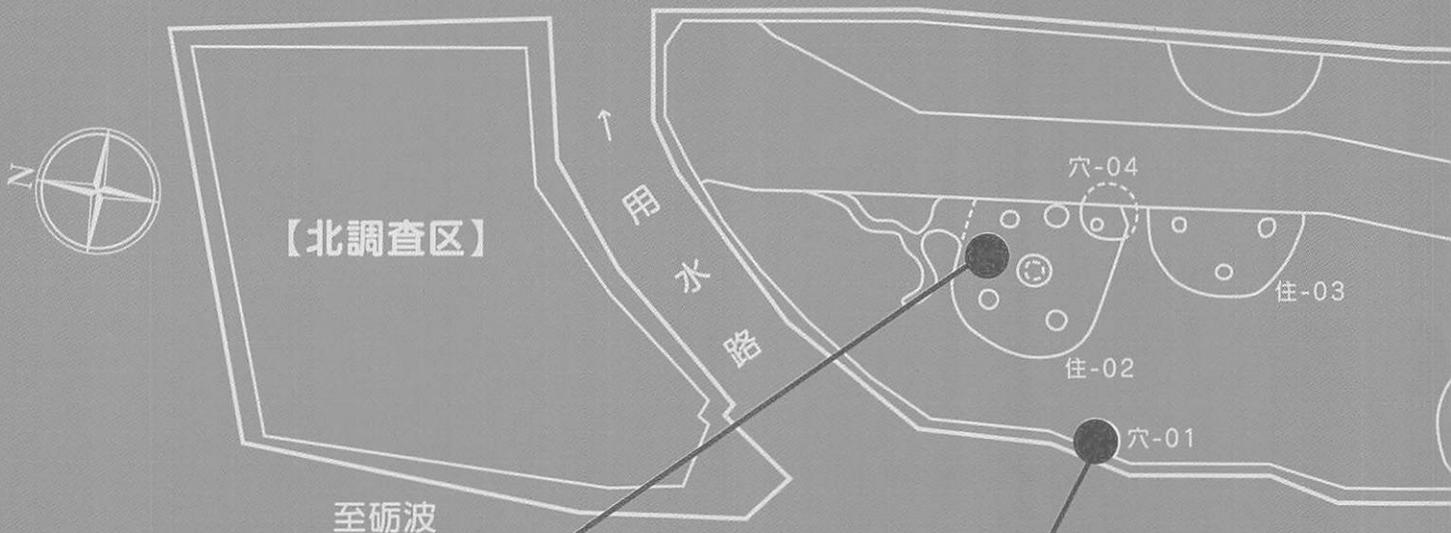
今回は、建設省の委託を受け、国道156号示野自歩道建設工事に先だって、平成10年度に1,100㎡の面積を調査しました。その結果からは、3棟の竪穴住居跡、柱穴、土塋、溝などの遺構と、北陸地方及び信州地方の縄文土器、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、石錘、石皿、耳飾などの遺物が確認できました。

これらの遺物は、埋蔵文化財に対する理解と周知のため、今後有効に活用していく計画です。



▲遺跡全景（南側から北側）

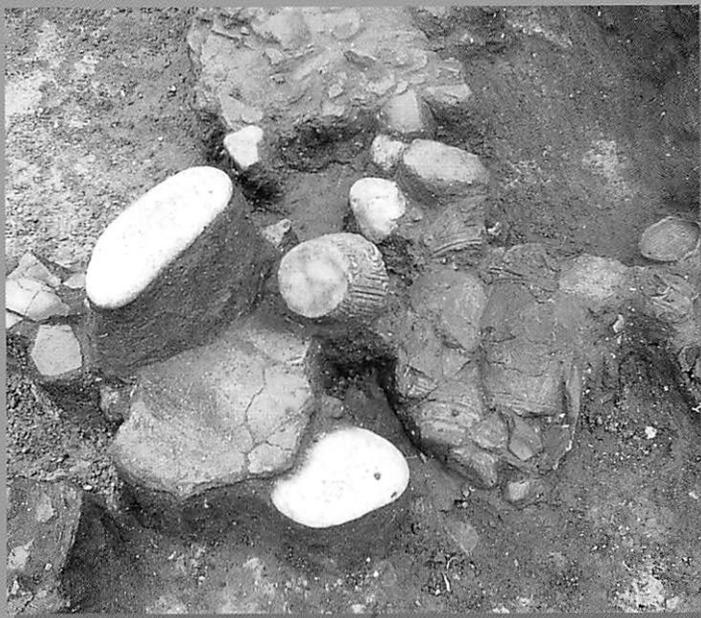
松原遺跡概略遺構配置図（平成10年度発掘分）



▼第2号 竪穴住居跡（中央にあるのが炉跡）



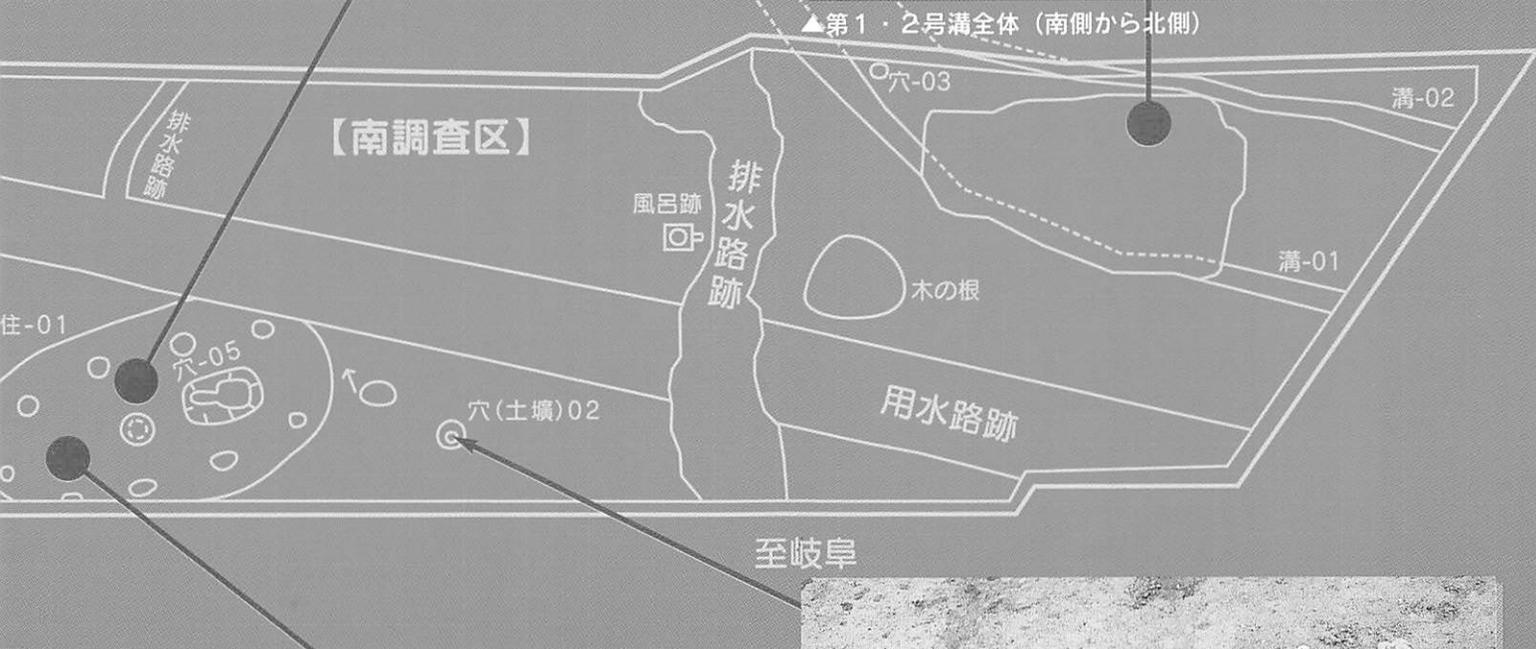
▲第1号 穴（中央部の長い石は未製石棒）



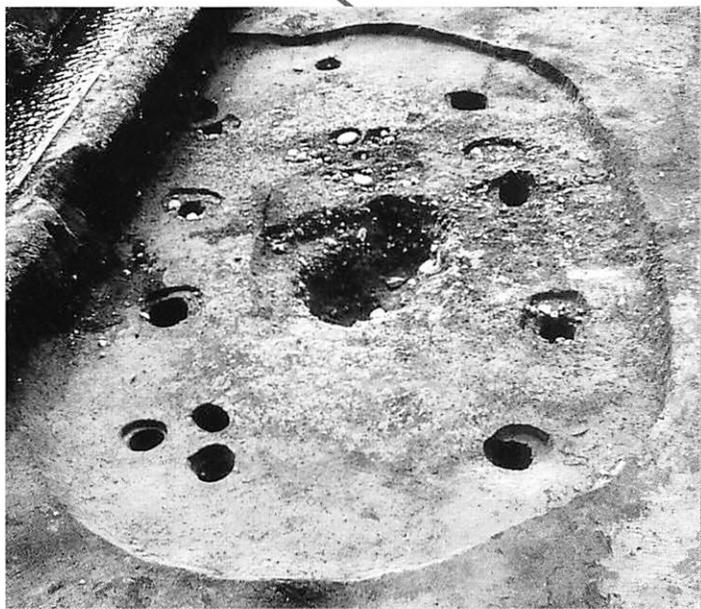
▲土器の出土状況



▲第1・2号溝全体（南側から北側）



▼第1号 竪穴住居跡



▲第1号 土壙  
(右側の土器は埋がめで、宗教的要素を意味するものと思われます)

# 石の造形 -Stone Objects-



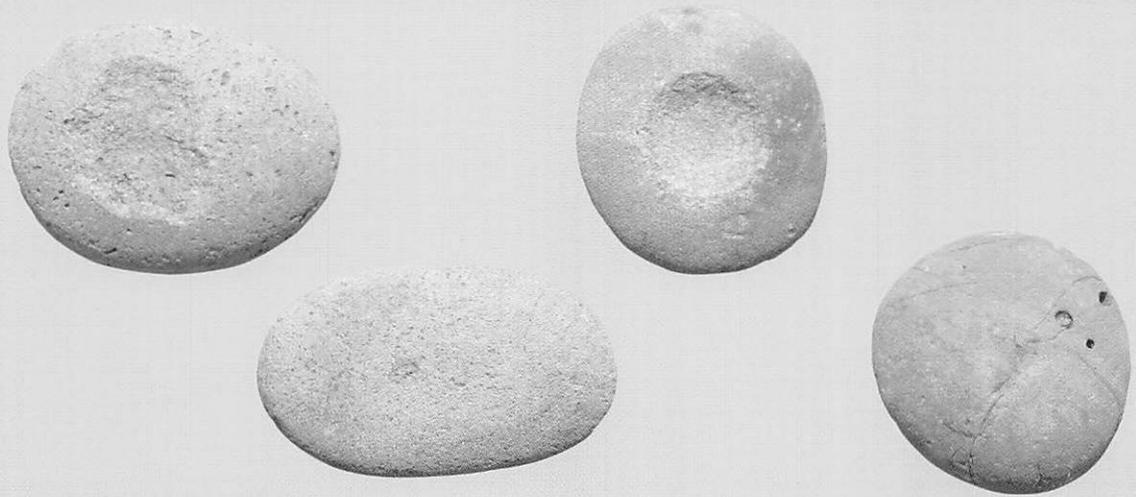
だせいせきふ  
打製石斧

石を打って製作し、植物質食料品を掘り出す用具として使われていたものと思われる。



ませいせきふ  
磨製石斧

砥石で研磨した石斧で、樹木の伐採や加工、楔として使われたと思われる。



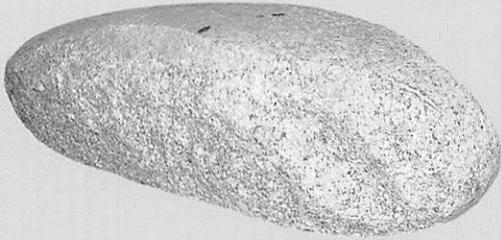
くぼみいし  
**凹石**

石面の中央部に凹みを付け、木の実や皮を割るときに使われたと思われます。



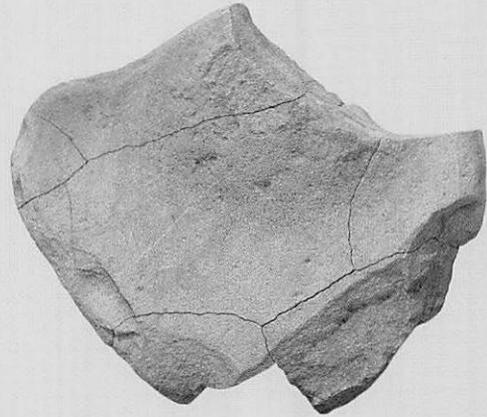
はくへんせっき  
**剥片石器**

石器から剥き取った薄片に多少の加工を施し、動物の肉を剥ぐ時に使われたものと思われます。



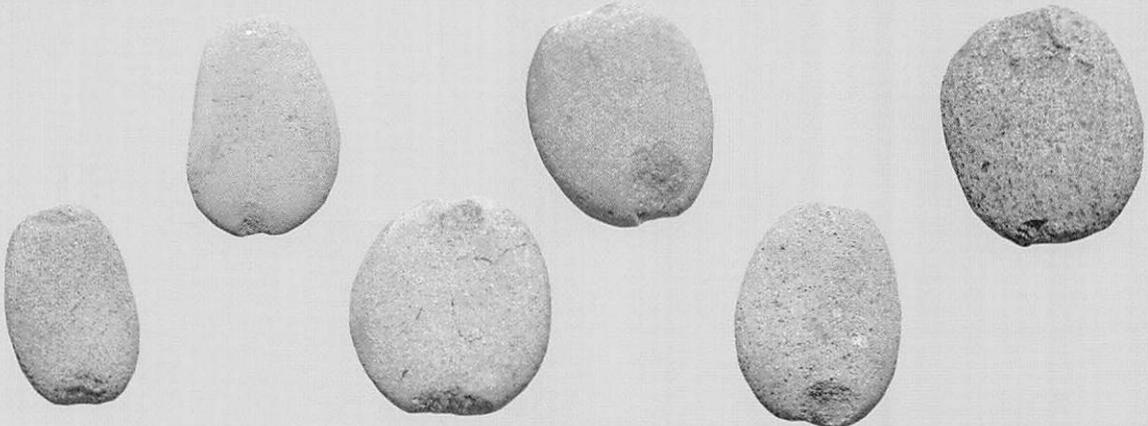
### 未製石棒

磨製石器の一部で、祭祀用具と思われ、製作途中の石棒です。



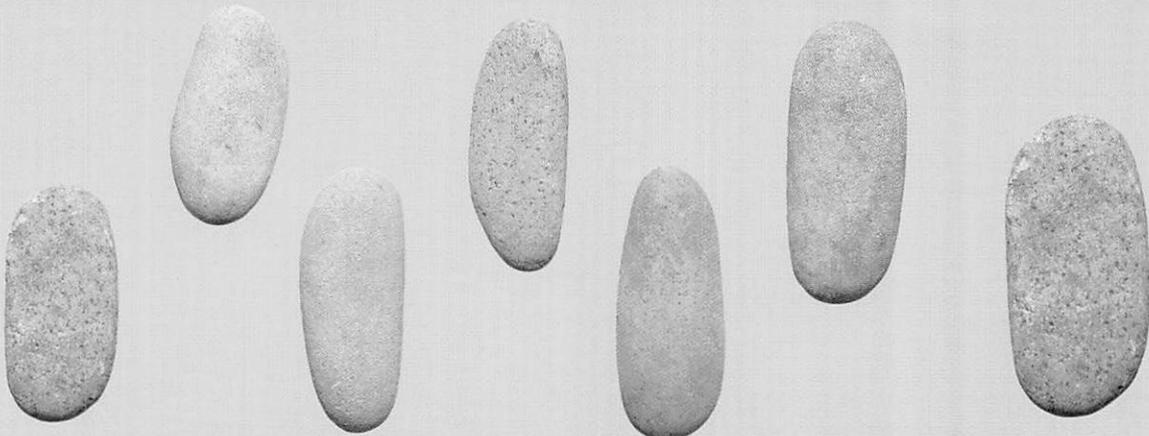
### いし ざら 皿

貝類や木の実などを粉碎する石器として使われていたと思われます。



### せき 石 すい 錘

石製のおもりで、魚を採取するときに漁網用のおもりとして使われたと思われます。



### すり 磨 いし 石

物を磨り潰すための石器で、木の実などの粉碎・製粉、顔料・土器製作の石粉碎などに使われていたと思われます。

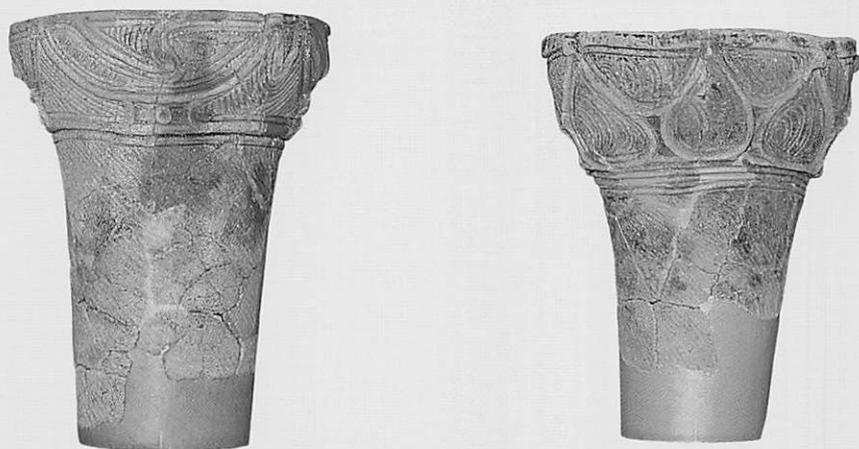
# 土の造形 -Soil Objects-

今回の発掘調査で、約70点の土器が復元できました。



北陸地方の縄文土器

しんぼ にんざき  
新保・新崎式土器様式、上山田・古府式土器様式



信州地方の縄文土器

あらかみち  
新道式土器様式

今回の発掘で、信州地方の縄文土器が出土しました。このことから、当時、信州地方と交流があったことが伺われます。



**平成10年度庄川町松原遺跡埋蔵文化財包蔵地発掘調査概要書**

■編集・発行 庄川町教育委員会生涯学習課文化振興係

■印刷 能登印刷株式会社 金沢市武蔵町7-10